

平成30年度第1回境港市総合教育会議
会議録

平成30年4月25日

※教育委員会事務局長から資料に基づき説明

中村市長

ただいま事務局から説明がありましたが、皆さまのご意見等をうかがい、調整を図りたいと思いますが、ご意見等はございませんか。

赤石委員

境港市教育施策推進大綱案で学校教育、社会教育の基本目標がそれぞれわかりやすく書かれていて、これから境港が向かう教育の方向がわかります。大綱に表記すべきかどうかわかりませんが、私は、家庭教育についてももう少し踏み込んだ表現があってもいいかと思います。家庭での自由奔放に育てるという教育方針というものがあるかもしれませんが、親としての義務というか、子どもに対して責任ある家庭教育、しつけとか、あいさつとかいうのは家庭での教育が大事だと思います。コミュニティ・スクールとか地域との連携という言葉で表現してありますが、さらにもう一步突っ込んだ内容で家庭教育に対する姿勢などを加えることができないでしょうか。教育はすべて学校に任せればよいというような感覚があるように感じています。家庭で責任を持って、子どもと向き合って、取り組んでもらえればと思います。

中村市長

赤石委員が言われる通りだと思います。家庭での教育は非常に重要なことだと思います。家庭での教育と学校での教育の両者がそろってうまくいかなければいけない。「学校教育の充実と家庭・地域との連携強化」の項目の中で家庭教育のことにももう少し踏み込んだ目標を掲げることができませんか。

松本教育長

できると思います。家庭教育が境港市の教育の一つの課題であると感じています。境港市の子どもたちは非常に従順で落ち着いた行動をとっていると私は評価していますが、一方で、自分で考えて行動するとか、主体的に動くといった部分は、まだ課題があると考えています。そういったところを伸ばすためにはまず、基本的な生活習慣を定着させていく必要があると思います。あるいは自分たちの生活そのものが安心・安全である、友だちとの人間関係、親と子の人間関係が良好である、そして自分自身が周りから認めもらえるといったモチベーションが高まるといったときに、子どもは主体的に行動ができてくると思います。そういった環境をつくるためには学校だけでは非常に難しく、家庭と手を合

わせて取り組んでいかなければいけないという気持ちが記載してありますが、そのあたりももうちょっと意識した表現にすることはできますよね。

教育委員会事務局長 コミュニティ・スクールの導入が大きく掲げられていまして、地域、学校、家庭が共通の目標を持って動くという取り組みになっています。当事者意識を持ってというところをもうちょっと踏み込んだ表現でより明確にすることは可能です。

中村市長 赤石委員の指摘は私もそのとおりでと思います。そのあたりの表現を検討してください。そのほかご意見等ございませんか。
(なし) よろしいですか。それでは、境港市教育施策推進大綱は表現を一部修正したもので決定させていただいてよろしいですか。
(異議なし) そういたしますと、本日決定しました境港市教育施策推進大綱を尊重していただき、教育の充実に向けて教育委員会でしっかりと協議していただいたうえで、教育行政を行っていただきますようお願いいたします。

②誠道小学校再編方針について

中村市長 続きまして、次の協議・調整事項は「誠道小学校再編方針について」であります。先日、教育委員会で決められた誠道小学校再編方針について意見交換をしたいと思います。
まずは、事務局から誠道小学校再編方針について説明をお願いします。

※教育委員会事務局長から資料に基づき説明

中村市長 ただいま事務局より説明がありましたが、皆さまのご意見をうかがい、今後の市としての方針決定に向かいたいと思いますが、ご意見等はございませんか。

赤石委員 2年間にわたって境港市校区審議会できろいろと検討させていただいて、答申は重たいものだと思いますし、私自身も連合運動会など境港市全体の行事に伺った時に、極小規模校の状態でリレーなどに参加できないとか、水泳大会でも参加できないなど、支障が出ているように思えます。学年によっては男子だけのところが

あるのを見させてもらおうと早急に対応しないといけないと思います。8年先の小中一貫校まで待つというのは無理があると考えます。そうすると、やはり誠道小学校と余子小学校の統合というのを考えた場合、最短が平成32年4月を目標として解消したほうがいいと思います。ひとつ気になるのは、答申では一中、二中、三中と三つの校区で統合と考えられていますが、財政状況などを聞かせてもらおうと、実際に小中一貫校ができるのが、8年先とか10年先になると、児童・生徒の減少が進む中で、3つの小中一貫校が必要かとは思っています。

中村市長

わかりました。そのほかご意見等はございませんか。（なし）
そうしますとただいま説明があった誠道小学校再編方針の意見をもとに境港市としての方針を決定いたします。

そのほか、協議・調整事項はございませんか。（なし）

以前聞いたことがあると思いますが、小学校の児童会が行っているところと廃止しているところがありますが現状はどうですか。

教育委員会事務局長

正確な把握はしていませんが、以前のような児童会というような特別活動は小学校ではなくなりました。ただ、子どもたちの自治活動というのは非常に大事で、一部、委員会といったものを運営することは行っています。それを束ねる全体の組織とかはない状況です。湖南学園は小中一貫校で、中学校に生徒会があるので、学年を少し下げて、小学校の上学年から生徒会活動にいれるといったことをされているところが県内にもありますので、今後、そういったところは小中一貫教育を進めていく中で工夫して行っていけるとは思います。

中村市長

学習指導要領にはそういうことは書かれていませんか。

教育委員会事務局長

小学校での児童会をするようにという記載はありません。

中村市長

なぜ廃止の方向になったのだろう。

教育委員会事務局長

一つは、授業時間数が減って、土曜日の授業がなくなって、週五日になったところで内容の精選が行われたことで、特別活動にあてることができないという現状があるので、残念ながらその影響を受けてなくなったのではないかと思います。

中村市長

なぜこの話をしたかと言うと、今、どこの自治体でも非常に投票率が悪くなって、政治への関心が低くなっていて、中学校・高校になってから模擬投票をしてみたりしても遅い。もっと子どものうちから、学校にいるときに自分たちの小学校の問題を自分たちで解決していこうというような教育というか、今こそ必要なのではないだろうか。6年間と学校の中でも過ごす時間が一番多い小学校でいろんな子どもたち同士の問題があったときに子どもたちがかかわっていく意識を育てるのがいいのではないかと考えています。現場の先生には大きな負担になるかもしれませんが、もしそういったことが本当に有効であるならば児童会専任の者をおいて子どもたちに児童会活動をしてもらうのはどうかということを考えていることがあります。

教育委員会事務局長

学校の教育課程を組む中で時間的な工面をしながら、行うことは可能だと思います。学校教育の方向も自治的な活動であるとか民主的な運営などは学校の指導要領の中にもあります。それをどういう形で具現化していくかということは考える余地があると思います。私も児童会の経験があるので、人前に立って話したりとかいろんな挨拶をしたりとかはとてもよい経験になっています。校長先生たちにも投げかけてみたいと思います。

中村市長

児童会の役員に立候補している人たちが人前で話すということだけでなく、そういった人たちがどんなことを考えているかを聞いて、投票するといったこともためになると思います。

松本教育長

最近の子どもたちは人を選ぶことを嫌っているというか、怖さを感じているように思います。学校教育で仲良しになろうと指導するので、その反動として、選ぶということを避けているように感じています。だから、じゃんけんで決めてしまったりする傾向があります。

中村市長

社会は人を選ぶといった世界ですから。好むと好まざるにかかわらず。

酒井委員

今は、学級委員もなくて、学級の生活は係活動で分担してやっています。児童会長を選ぶどころか、学級の役員を選んでいませ

ん。特別活動の時間数が1時間しかないので、学級活動でいっぱいいっぱいになってしまいます。

中村市長

専任の人をそろえればいいという状況じゃないんですね。時間数が足りないというところが大きいんですね。

赤石委員

私たちの組織でも、リーダーになるということを敬遠するようになっていて、子どもたちもリーダー的な目立つようなことはしたくないといったことが親からも聞かれます。自分たちでも目立つことはやめておこうとか、班長とかにならないといった避ける意識が強くなっているように感じます。

中村市長

大人になってからの社会活動にも影響が出てきているんですね。

徳永委員

いつから学級委員がなくなったのでしょうか。私の子どものときにはまだあったと思いますが。

酒井委員

指導要領が変わって、特別活動の時間数が少なくなってからだと思います。委員会の委員長はいて、代表委員会というのがありますが、これは授業時間に位置付けられていないので、放課後とか休憩時間にやっています。

中村市長

どんな委員会があるんですか。

酒井委員

放送委員会とか、運営委員会、給食委員会、美化委員かいとかですね。リーダーシップを養うという機会は少なくなってきていますね。

松本教育長

リーダーだけではなくて、組織には、リーダーがいて、フォロワーがいて、組織が活性化されます。そのあたりが、今の子どもたちを見ていたら弱いように感じます。先ほど言われたように、大人の社会でも、校長にも教頭にもなりたくないという教員が多くなっています。教育の影響はでているなと思います。

中村市長

児童会について今後も考えていただけたらと思います。そのほかご意見などございますか。

十河委員

今回の大綱にもありますが、一人ひとりを大切にした質の高い教育ということで、特別支援教室の充実をあげていただいているのですが、ちょうど狭間にいる子供たちが多いと聞いています。LDと判定されるとその子にあった授業を行っていただいているようなのですが、特別支援の対象にならないことで、その子にあった支援がされていないこともあるのかなと思うことがあります。一人ひとりを大切にした教育をしていただきたいと思います。

中村市長

事務局の方から説明をお願いします。

教育委員会事務局長

特別支援教室には近年、理解が進んできたと学校教育現場は感じていますし、特に境港市は福祉部局とも連携をとっていて、健診などでも保健師に見てもらったりして、発達で課題があると感じたときにはピックアップしていますし、特別支援コーディネーターも配置しています。特別支援コーディネーターを中心に市内の各園をまわって、様子を参観して、聞き取って、子ども状況を確認して、それを小学校につなげています。小学校の入学のときには、支援が必要な子についての情報がきちとつながるようになっていました。この2年間でかなり整理できました。そういう見取りの中で、学校も学校なりの見取りをしながら、細やかな支援ができるようになっていました。ただ、発達段階の中で、支援を要する子どもたちは、どこかで見えなくなったり、環境で見えるようになっていたりすることがあるので、そういった見取りは学校で丁寧にしながら、個別に支援できる体制や、計画を立てるようになっていきますので、そこで細やかな見取りをしていく体制ができています。特別支援に携わる研修に先生方を派遣して、学校に情報を還元してもらえるようにしています。専門的な知識がないとできないこともありますので、研鑽していかなければならないので、教育委員会事務局も先生方をフォローアップしていきます。インクルーシブ教育といって、障がいのあるなしにかかわらず、一緒に生活するという考え方が定着してきましたので、その方向で市の方も進んでいこうと思っています。意見は学校現場にかえしていきたいと思います。

松本教育長

境港市の強みは、指導補助員を各校2名ずつ配置をしていただいている、この方が授業の中で、配慮を要する子どもに触れ合いながら指導の補助をしていただいているので、本当に強みだと感

謝しています。

中村市長

よろしいですか。ほかにご意見等ございませんか。(なし)
それでは本日の協議・調整事項は以上となります。ありがとうございました。